

いにしえ湖南ものがたり

まつばらたなか いせき 松原田中遺跡



弥生時代の水田みつかる！（1区）

調査区の掘り下げを進めると、川の氾濫（はんらん）によって運ばれた砂で覆われた水田を見つけました。砂の中から、弥生時代後期（1900～1800年前）の土器が見つかったことで、その頃のものとなりました。鳥取市内で弥生時代の水田が見つかったのは、青谷上寺地遺跡以外にはなく、貴重な発見です。



（写真上）あぜを確認した状況。黒い土が帯状にのびているのがわかります。



（写真右）砂を取り除くと、小さな区画の水田が姿をあらわしました。

ゴミ捨て場（2区）

隣接する二つの調査区を調べると、東側に居住の場（ムラ）、西側に水田が広がっていることがわかってきました。

調査区のうち、東側に位置する2区では、弥生時代後期から古墳時代前期（1800～1700年前）の「土器だまり」が見つかりました。その場所は平らな地形が徐々に低くなるところで、その先には同じ頃につくられた水田が広がっています。

ムラと水田との境界が、ゴミ捨て場として使われ、壊れた土器などをまとめて捨てたのでしょう。



土器だまりの様子

一面に広がる土器。作業員さんたちは足の置き場に苦労しながら、丁寧に周りの土を掘り下げています。

鳥取西道路の

遺跡を掘る！

第18号 2010年10月20日

今年の調査も、各現場とも佳境に入ってきています。

高住平田遺跡では、平安時代のものでみられる、銅でできたハンコ（銅印）が見つかりました。鳥取県内ではこれまでに4例が知られていますが、いずれも土の中から偶然見つかったもので、発掘調査で見つかったのは初めてです。

今回は、この銅印についてご紹介します。



古代の銅印が出土！



今回見つかった銅印は、印面が一辺3cmの正方形で、高さも3cmほどあります。

つまみは花のつぼみを横から見たような形で、ひもを通すための穴があげられています。

印面の文字は篆書（てんしょ）と呼ばれる字体で彫られています。専門家の話では、字は「木」が有力で、「朱」や「市」の可能性もあるとのことでした。

日本では、今から1400年前に国や役所で使われてはじめます。やがてお寺でも使われるようになり、奈良時代の終わりごろからは貴族や地方の有力者たちもハンコを使うようになります。

今回、銅印が見つかったことで、この地域の有力者が高住平田遺跡の周辺にいた可能性が高いことがわかりました。

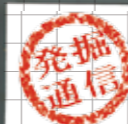


1文字の銅印は貴族や有力者のものが多く、使っていた人の氏名から1字を取ることが多かったようです。

（財）鳥取県教育文化財団
調査室
美和調査事務所

〒680-1133
鳥取市源太 12 番地
（旧鳥取湖陵高校美和分校内）

TEL : 0857-51-7553
FAX : 0857-51-7550
メールアドレス：
matsuik@pref.tottori.jp



本高弓ノ木遺跡と高住平田遺跡で、現地説明会を開催いたします。

開催日：11月3日（水・祝）（小雨決行）
開催時間：本高弓ノ木遺跡：午前10時30分から
高住平田遺跡：午後1時30分から

発掘現場で実際に遺跡のようすや出土した遺物をご覧いただけますので、ぜひ、足をお運びください。
なお、足元が悪いので、動きやすい靴でお越しください。

鳥取県教育文化財団 調査室

検索

埋もれた太古の暮らし

もとだかゆみのき いせき

本高弓ノ木遺跡



国土地理院1/25000地形図「鳥取南部」より



鉄斧の装着方法



柄にはめ込む部分を袋状にしています

弥生時代の大工道具

弥生時代後期（約1900年前）の溝から変わった形の木製品が出土しました。少し曲がった棒の先に丸い頭があり、その先端だけが細く突出しています。一体何だと思いませんか？

答えは「^{おの}えの柄」。先端の突出部分に鉄製の刃をはめ込んで使います。残念ながら刃そのものは見つかりませんでした。刃をはめ込む突出部の幅はほんの2～3cm。木を切り倒すような大型品ではなく、木の表面を削るための小さな斧の柄として使われたものだったのでしょ。

現代でも「ちょうな」と呼ばれるよく似た斧が大工道具として使われています。

現代のちょうな



写真出典：竹中大工道具館常設展示図録『木を生かす』

のさかがわ

野坂川を見下ろす古墳

みやだに

ごうふん

宮谷26号墳



国土地理院1/25000地形図「鳥取南部」より

長大な埋葬施設を発見

野坂川を見下ろす山の斜面に造られた宮谷26号墳。その主（あるじ）が眠る埋葬施設は、長さ3mにもおよぶものでした。墳丘頂部の中心部にあり、丸太をくり抜いた棺（ひつぎ）が納められていたとみられます。

埋葬施設の中からは須恵器（すえぎ）の壺や高坏、小さな鉄の道具がみつかりました。須恵器は片側によせられるようにお供えされていました。

出土した須恵器の特徴から、この古墳は6世紀の終わりから7世紀の初めに造られたものと考えられます。



須恵器



壺

坏(つき)

坏の蓋(ふた)

高坏(たかつき)

記録的な猛暑の中、2ヶ月にわたって行ってきた調査がようやく終了しました。この成果をもとに、宮谷古墳群、さらには千代川の西岸における古墳時代のようなすを考えていきたいと思っています。

長大な埋葬施設と副葬された須恵器

池のほとりに住んだ人々

たかすみひらた いせき

高住平田遺跡



国土地理院1/25000地形図「鳥取南部」より

文字が書かれた土器

古代から中世にかけて流れていた川の跡が掘りおわりました。この川は調査区の中を湖山池に向かって、やや蛇行しながら北へ流れていました。

この川の底近くから、底の部分に墨で文字が書かれた平安時代の土器がみつかりました。一部が欠けているのですが、「深縁」と読み取ることができます。

古代には、文字を使っていたのは役人や僧侶、貴族などに限られていました。また、川のすぐ近くからは銅印（トップページ参照）がみつかりました。

これらのことから、この遺跡が地域の有力者と深いかかわりがあったと考えられます。



銅印がみつかったところ



底に書かれた文字を拡大した写真



川の底からは、墨書された土器以外にも、奈良時代から平安時代にかけての土器が多く出土しました。

なかには全く割れていないものもみつかりました。

もしかすると、川のほとりでおまじないをした後に、使った土器を川に投げ入れたのかもしれない。